

第2回 泉北ニューデザイン推進委員会の報告について

令和4年7月1日、校区代表者会議終了後に開催した「泉北ニューデザイン推進委員会」の内容について、以下のとおり報告します。

- 1 委員 ◎岸本（三原台）、○鹿淵（新檜尾台）、田中（美木多）、榎（上神谷）、
太田（竹城台）、西上（桃山台）、小田（城山台）、前田（原山台）、
松浦（庭代台）、戎谷（御池台）

（◎は委員長、○は副委員長）

2 内容

- (1) 近隣センターのあり方について（買い物対策を含む）
(2) 意見交換

【意見交換でのおもな意見】

- 泉北ニュータウン（以下、「NT」と記載。）の近隣センターから生鮮食品店が無くなっている。少なくとも生鮮食品スーパーが無いと生活できない。高齢化が進む中、スーパーは駅前にしかなく、将来的に、駅から離れた地域では人が住めなくなる。NTに住む人たちが長く住み続けるよう、近隣センターに生鮮食品を扱うスーパーを作るなど市が対策を打ってほしい。
- 南区の強みとして農業があげられる。広い農地と生産者がいるので、そこで収穫した農作物を、NTの近隣センターで産地直送の農作物として販売しても良いのではないかと。また、空地を農地に転用し、一般の方に開放し農作物を作り、余った農作物は売る等の仕組みはどうか。新しい仕組みを作っていないといけない。何かしないとこのままでは南区はダメになってしまう。
- スーパーが減っていくのは商売だから仕方ない。スーパーを維持するには住民が商品を購入しないとイケない。住民の多くは高齢者だが、高齢者は一人暮らしなど人数少ない世帯が多く、スーパーでも少しの量しか購入しない。これでは経営が成り立たなくなるのは仕方ない。
- スーパーが成り立たないのならば、オンデマンドバスで行きたいところに行って購入したものを家まで運んで帰れるようにするなど、自分たちで仕組みを考えていけないといけない。
- 行政ばかりに頼るのではなく、ここに住めばこんな良いことがあるとアピールできるこ

とを考えていかないといけない。

マイナスばかりに考えるのではなく、これからどうしていくか、自分たちがどうするか、自分たちで魅力的なところを発信するようにしていかななくてはならない。

- NT 地域をどうするかも大切だが、旧村地域も含めて両地域がうまくいく施策を行っていくことが大事だと思う。
- 旧村地域ではバスの本数も少なく、高齢者は移動できない。
商売が成り立たなければ、スーパーは儲からなければ、潰れていく。
現在、移動スーパーも来てもらっている。割高にはなるがいたしかたない。
- 近隣センターの各店舗の店主たちは、もともと地元に住んでいた方で、公的な土地は行政が持っている。近隣センターで何かしようとするとう全員の同意が必要となりそれがネックになることがある。
また、スーパーの再生については、障害者団体と連携することで成り立つ事例もある。
スーパーの再生など近隣センターの再生には民間主導では成り立たないので、障害者団体との連携など福祉的な要素に転用して活用することはまだまだできると思う。
各校区自治連合会と一緒に連携して近隣センターで福祉的な取組を実施すれば、地域住民にとっても良い結果にもなるのではないかと。
- 一方で、近隣センターというのは行政の働きかけで左右されるものではなく、お金に左右される。福祉関係の団体には補助金があって、比較的、金銭的に耐えられることもある。
近隣センターの全部が福祉関係団体というだけでは地域は成り立たないのではないかと。
- 各校区いろんなことがある中で、これからは防災と同じで「公助をあてにしない」ということが必要だと思う。自分たちで考えて、助けてほしいことは行政に助けてほしいという時代であると思う。
- 自分たちで何ができるかを検討していくことが重要。ニュータウンだけでなく旧村も含めて南区をどうしていくのかということが必要だと思う。
- 対象はニュータウンだけでなく南区であるというのはおっしゃる通りである。
また、緑というキーワードは、農業・食・安全安心・カーボンニュートラル等と関連してくると思うが、それを中心に考えていくことが重要ではないかと思う。

※ 次回は、今回のお話を踏まえ、引き続き会議を進めていく。

※ 今後も、内容に応じて関係部署の方にお越しいただく。

以 上